

# 2009年度4カ国合同セミナー 報告書

期 間：2010年1月16日(日)～21日(木)

場 所：ラオス、サバナケート県サイフウトン郡内

参加国：タイ、ラオス、ベトナム、日本(オブザーバーとして、マダガスカル)

各国参加者：日本代表9名、海外代表23名、オブザーバー1名 合計33名

日本(9名)、ベトナム(9名)、タイ(4名)、ラオス(10名)、マダガスカル(1名)

助成団体：(財)三菱UFJ国際財団(助成金：114万円)

主 催：アイユーゴー(途上国の人と共に)

協 賛：神戸大学大学院保健学研究科



セミナーに参加した若い人たち



セミナーの発表風景



文化交流会



日本から参加した若い人たち

- ラオス サバナケート県サイフウトン郡農業支援センターにて -



サイフウトン地区ヘルスセンターのスタッフ

日程	活動	滞在場所
16 (土)	22:00 関西国際空港に集合、出国。	各国空港
17 (日)	ラオス、サバナケートまで移動。 i) 合同セミナー オリエンテーション	Rungthip Hotel
18 (月)	アイユーゴー農業支援センターに移動。 i) 合同セミナー開催 各国代表者プレゼンテーション ii) 文化交流	村にてホームステイ
19 (火)	i) 合同セミナー グループディスカッション フィールド研修	Village
20 (水)	i) 合同セミナー 行動プラン議論 行動プラン宣言	Rungthip Hotel
21(木 )	FREE DAY	

## 目次

### 表紙

- 1.
2. ラオス全図
3. サイフウトン郡全図
4. 2009年度4カ国合同セミナー
5. 参加者リスト(List of Participants)
6. インビテーションレター(ベトナム、マダガスカル)
7. ラオスプロジェクトに関する報告
8. ラオス、サバナケートにおける保健衛生調査  
(齋藤由香氏による:神戸大学大学院研究科保健学 博士課程 在中 2007年)
9. ベトナムにおける4カ国合同セミナー報告書
10. アイユーゴー ユースの会 報告書  
参加者:京都大学法学部、大阪大学医学部保健学科、神戸大学大学院研究科保健学、  
慶応大学政策学科、アイユーゴースタッフ、University of British Columbia
11. 東南アジア情報  
「伝統工芸で防げ」、「メコン川の浸食」、「アジアに着々 衛星都市」
12. <参照>  
「ラオスにおける森林の減少とゴムの導入 -マレーシアとの比較から」  
内藤大輔氏(東南アジア地域研究専攻)

### 第3回保健・医療、福祉に関する4ヶ国合同セミナー

神戸大学大学院保健学研究科教授 三木明德  
(アイユーゴー 副代表)

2010年1月18～20日の3日間、ラオスサバナケート県サイフウトン郡の農業研修センターにおいて、アイユーゴー主催の第3回保健・医療、福祉に関する4ヶ国(タイ、ベトナム、ラオス、日本)合同セミナーが開催された。このセミナーは(財)三菱UFJ国際財団から助成を頂き、ダラット大学社会福祉学部(ベトナム)と神戸大学大学院保健学研究科が協賛大学として参加した。今回のセミナーでは貧困をテーマに、40歳以下の若手研究者、大学院生、学部学生が中心になって発表、討論、議事進行が行われた。

1月18日朝9時に農業研修センターに到着すると、区長をはじめ、多数の村民代表の出迎えを受け、可憐な少女達が花の首飾りを我々にかけて歓迎してくれた。発表会では、最初に区長が開式の辞を述べた後、貧困に関わる保健・医療、福祉の現状や解決すべき諸問題が各国の参加者から報告された。

#### 午前の部

- 1) 1) Miho Koike (Japan): Rehabilitation in Cho Ray Hospital ~Ho Chi Minh City, Vietnam~
- 2) Mihn Dao, Quan Tran (Vietnam): Traditional medicine in Vietnamese health care system.
- 3) Tsuyoshi Asai (Japan): What is the metabolic syndrome?
- 4) Phoumy Bansouvanh (Laos): Medical care system and problems in Laos.
- 5) Junko Koga (Japan): Nutritional activities in Botswana.

#### 午後の部

- 6) Somyos (Thailand): The organic agriculture training center: A dream towards a good society.
- 7) Thepvongsa (Laos) Peace independence democracy unity and prosperity.
- 8) Momoko Nagai (Japan): About the poverty problem in Japan.
- 9) Tsunehiro Otsuka (Japan): Serious society aging in Japan.
- 10) Keiko Kikuchi (Japan): The present situation of "walk-in delivery" against the background the economic problem in Japan.
- 11) Minh Hien (Vietnam): Co-reating sustainable bioregional communities (CSBCom) –A development paradigm for community organization.
- 12) Ngo Van Huan (Vietnam): Social welfare for the Churu Elderly.
- 13) Tran Thi Minh Phuong (Vietnam): The application of participatory methods on poverty reduction projects in Lac Duong district, Lam Dong province, Vietnam.
- 14) Le Minh Hung (Vietnam): School violence.
- 15) Nguyen Thi Lan (Vietnam): Local officials' roles toward people's participation in social activities: A case study in Preiteing I Hamlet, Phu Son Commune, Lam Dong province.

発表会の後の総合討論では、多くの若い日本人が青年海外協力隊員として海外で活発な活動を展開していることに大きな関心を示すとともに、先進国とされる日本にも、貧困問題や少子高齢化、生活習慣病、ワーキングプアなど様々な問題を抱えていることに驚きの声が上がった。討論会が終わると、村の長老達によってバーシーという歓迎の儀式が行われた。バナナの葉を織り込み、花をあしらった円錐形の飾りを前にして、長老達は長寿や健康、幸せを祈る呪文を唱えながら、私たちの手首に紐を結んでくれた。

バーシーのあと、センターの広場では村人たちが作ってくれたラオス料理に加え、参加各国から持ち寄った料理がふるまわれ、多くの村民たちを交えて文化交流会が始まった。カラオケの伴奏がスピーカーから流れ、代わるがわるに歌い手がステージに立った。それに合わせて、美しい衣装を身にまとった少女達が可憐な民族舞踊を披露してくれた。やがて少女達に誘われてセミナー参加者も加わり、踊りの輪は国際交流の場へと大きく膨れ上がった。村民総出で、歌あり踊り

ありの交流会は、村を挙げてのお祭りのようでもあった。

文化交流会の後、参加者はいくつかのグループに分かれてホームステイ先に向かった。私がお世話になった家庭でも、家族全員が揃って歓迎してくれた。このホームステイによって、ラオスの人々の暖かさや親切さ、心の豊かさを知るとともに、生活の様子を実際に体験することができた。

1月19日、ホームステイ先で朝食を頂いたあと、朝9時にセンターに集合してグループ討議が始まった。まず、参加者が国別のグループに分かれて約1時間、前日の発表会で感じたこと、今後の交流のあり方や活動の内容などを検討し、大きなポスターを作成した。そして順に発表して質疑応答を行った。タイ、ラオス、ベトナムからは、アイユーゴーとの連携活動の実際や今後の計画、要望などが発表された。日本からは、保健・医療、福祉などに関する情報の共有や人的交流の重要性が指摘された。また、先進国とされる日本にも社会の高齢化や経済的格差の拡大、雇用、教育、環境問題など様々な問題を抱えており、東南アジア諸国が健全な発展を遂げるためには、このような場で、これまでの日本の歩みを振り返り、その是非を検討することが重要であるという意見が出された。

メコン川沿いのレストランで昼食をとったあと、郡の病院と地区のヘルスセンターを視察した。郡の病院といっても、医師1人、薬剤師1人、看護師数名しかいないという。もちろん、十分な医療機器はない。また、ヘルスセンターは3名の看護師と2名のボランティアで運営されている。ここでは分娩も行われているというが、壁板の隙間からは青空が覗き、分娩室には粗末なベッドが1つ置かれているだけで、医療機器や医薬品はほとんど見あたらなかった。この見学は我々日本人に大きな衝撃を与えると同時に、今後、これらの国々と連携していくためには、それぞれの国がおかれている保健・医療、福祉の現状を実際に見ることの重要性を痛感した。

午後3時半頃、バスでサイフウトンからサバナケートに向かい、6時過ぎにホテルに着いた。しばらくホテルの部屋で休憩した後、メコン川に浮かぶ屋形レストランで夕食をとった。ゆったりとしたメコンの流れを眺めていると、日頃の慌ただしい生活が嘘のように思えてきた。そして、雄大な自然に溶け込んで生活するラオスの人たちを、ちょっぴり羨ましく感じたのは、私だけでなかったかもしれない。

1月20日朝9時から最後のミーティングが始まり、次回以降の行動計画を話し合った。この4ヶ国合同セミナーは、4ヶ国間で情報や意見交換が同時にできること、短期間ではあるが、全員で行動を共にすることによって密な交流ができることなど、非常に素晴らしいプログラムである。今後とも続けて欲しいという要望が各国から出された。勿論、日本人参加者もこのセミナーを通して様々なことを学び、国境を越えて、多くの若い人たちと交流ができたことは大きな収穫である。次回はタイのメーホンソンで開催し、テーマは環境問題にすることが決まった。なお、時期については今後詳細を詰めることとした。

ミーティングのあと、バスに分乗してサバナケート市内をひと巡りした後、市内のレストランで最後のランチをとった。ここで、ベトナムグループとはいよいよお別れである。ちょっと目をうるうるさせながら抱き合う人、固く手を握って再会を約束する人、後ろ髪を引かれながらバスに乗り込む人。バスが動き出すと、窓から身を乗り出して両手を振り続ける姿がやがて街角に消えていった。

テレビや新聞などでインドシナ諸国の状況を知ることができる。しかし、それはある一面でしかなく、しかも磨りガラスを通して映し出された映像のようで、実際を感じるには限界がある。今回、日本から参加した若い人たちは初めてラオスの人々と直に接し、確かに貧しいのは事実であるが、素晴らしい文化や伝統を持ち、日本人がいつしか忘れてしまっていた心の温もりや豊かさを感じるとともに、これまで想像すらできなかった世界を自分の目を通して直に知ることができたこと、そして何よりも、言葉の壁は少しあったにせよ、色々な国の人たちと本当の仲間になったことを実感したようである。また、これからの自分を考える上で、今回のセミナーは一つのきっかけを作ってくれたようである。

アイユーゴーの名は、「共に」という意味のギリシャ語からとったものであるが、セミナー最後のスピーチで、「アイユーゴーはI and you go togetherだ。」と駄洒落を飛ばすと、会場から大きな歓声と拍手を頂いた。私は今年還暦を迎えた。しかしあとしばらく、せめて足腰の立つ間はアジアの人々との交流を楽しもう。そういう思いを新たにしたいセミナーであった。

The Schedule based on Japanese itinerary

<b>Date</b>	<b>Time</b>	<b>Activities</b>	<b>Remark</b>	<b>The person in charge</b>
<b>16 (SAT)</b>	20:30	Get together on the 4 <sup>th</sup> floor of KIX (Kansai International Airport)		
<b>17 (SUN)</b>	00:30	Depart	TG673	
		<b>[ Thai Time ]</b>		
	05:00	Arrive at Bangkok. Enter the city of Bangkok		
	12:00	Get together at the counter		
	13:40	Leave Bangkok	TG022	
	14:45	Arrive at Ubonrachatani		
	15:15	Leave Ubonrachatani	Bus	
	17:45:	Arrive at Mukdhan		
		<b>[ In Laos ]</b>		
	19:00	Check in Rungtip Hotel	Rungtip Hotel	
19:45	Have dinner and hold orientation	restaurant		
20:45	Have a meeting	Rungtip Hotel		
21:30	Break up			
<b>18 (MON)</b>	07:00	Have BreakFast	Hotel	
	08:00	Check out after breakfast in hotel	Bus	
	08:15	Move to the center		
	09:30	Arrive at the center		
	10:00	Seminar starts	Center	*
	12:30	Have lunch in the center		
	13:30	Seminar starts again(Presentation by each country)		
	15:00	Have a coffee break		
	15:20	Seminar again (Q&A) Seminar ends		
17:30	Have dinner & promote the food exchange			
18:30	Welcome Baci ceremony			
21:00	Move to homestay	Homestay		
<b>19 (TUE)</b>	08:00	Have breakfast at the village	Homestay	
	09:15	Discuss the action plan	Center	*
	11:45	Finish & memory planting tree ceremony		
	12:15	Leave Center		

	12:40	Have lunch	River side restaurant	
	13:30	Depert		
	14:00	Lao sightseeing(stone house)		
	15:00	Visit Hospital		*
	15:30	Visit the health center in the district Have a feasibility study in the health center		
	16:00	Lao sightseeing(temple)		
	17:00	Move to Savannakhet	Bus	
	18:00	Check in	Rungtip Hotel	
	19:30	Have dinner	near the Hotel	
	21:00	Break up		
<b>20 (WED)</b>	08:15	Have breakfast after then, starting to hold the action plan meeting	Rungtrip Hotel	*
	09:15	Sightseeing and shopping in Savannakhet	Bus	
	11:30	Check out & have Lunch		
	14:00	Leave Savannakhet	Bus	
	15:30	Leave Mukdhan		
	18:00	Arrive at Ubonrachatani airport		
	19:00	Leave Ubonrachatani	TG031	
	20:05	Reach Bangkok		
	23:00	Leave Bangkok - NITTA	TG622	
<b>21 (THUR)</b>	23:00	Sightseein in Bangkok Leave Bangkok	TG622	
<b>22 (FRI)</b>		[ Japan Time ]		
	06:10	Reach KIX in Japan		

感想文

パワーポイントは「発表冊子」にまとめる。

